



みなおと

No. 64

秋田大学教育文化学部・教育学研究科情報誌 2025. 11. 6

7月19日、オープンキャンパスを開催しました

猛暑が続くなか7月19日、秋田大学のオープンキャンパスが開催されました。教育文化学部では、参加者1071名、学部全体説明会964名、相談コーナー52名、コース等企画1340名(延べ人数)の方が訪れました。

ボランティアとして参加してくれた学部の学生は135名でした。

みなさまのご来場・ご協力ありがとうございました。



受付の様子



60周年記念ホールでの全体説明会の様子

秋田大学 オープンキャンパス 2025 教育文化学部 プログラム 2025.7.19(土)

事前予約が 必要です! ※「学部全体説明会」は、OCANsにて「事前予約」をした方でないと会場へお入りいただけません。

9:00 受付開始、資料配布

9:30 教育文化学部全体説明会 (1回目) 9:30-10:00
①学部長あいさつ ②学校教育課程・地域文化学科説明 ③進路・就職情報 ④入試情報説明 ⑤学生による学部紹介

10:00 教育文化学部 3号館 (会場 2 | 2階255講義室)

10:30 教育文化学部全体説明会 (2回目) 10:30-11:00
①学部長あいさつ ②学校教育課程・地域文化学科説明 ③進路・就職情報 ④入試情報説明 ⑤学生による学部紹介

11:00 教育文化学部 3号館 (会場 1 | 1階145講義室)

12:30 教育文化学部全体説明会 (3回目) 12:30-13:00
①学部長あいさつ ②学校教育課程・地域文化学科説明 ③進路・就職情報 ④入試情報説明 ⑤学生による学部紹介

13:00 教育文化学部 3号館 (会場 2 | 2階255講義室)

相談コーナー 10:00-14:00(予定)
教職員と学生が、入学試験に対する疑問や、課程・学位・コースについての質問にお答えします。
【会場】(10:00-12:30) 教育文化学部 3号館 1階 150講義室
(12:30-14:00(予定)) 教育文化学部 3号館 2階 第4会議室

各企画の内容は次のページに! 9:00-15:30

学校教育課程
・初等中等教育コース
・教育実践プログラム
・英語教育プログラム
・理数教育プログラム
・特別支援教育コース
・こども発達コース

地域文化学科
・地域社会コース
・国際文化コース
・心理実践コース

附属教職高度化センター





教育文化学部を見て、聞いて、体感しよう！

～課程・学科・コース・附属教職高度化センターの紹介企画～

時間	学校教育課程				地域文化学科				附属教職高度化センター	時間	
	初等中等教育コース 教育実践プログラム	初等中等教育コース 英語教育プログラム	初等中等教育コース 理数教育プログラム	特別支援教育コース	こども発達コース	地域文化学科説明会	地域社会コース	国際文化コース			心理実践コース
09:00	初等中等教育コースを 知る										09:00
09:30	●秋田大学 ●学生によるコース紹介 【教育文化学部附属初等中等教育センター】										09:30
10:00	●自由参加の 相談コーナー 【教育文化学部附属初等中等教育センター】										10:00
10:10											10:10
10:15											10:15
10:25											10:25
10:30											10:30
10:45											10:45
11:00											11:00
11:05											11:05
11:10											11:10
11:15											11:15
11:25											11:25
11:30											11:30
11:35											11:35
12:00											12:00
12:05											12:05
13:00											13:00
13:05											13:05
13:10											13:10
13:15											13:15
13:25											13:25
13:30											13:30
13:40											13:40
13:45											13:45
13:55											13:55
14:00											14:00
14:15											14:15
14:30											14:30
14:45											14:45
15:00											15:00
15:30											15:30

2025年各プログラム・コースの企画紹介

教育文化学部の学びを学外の方によく知っていただくために、学部全体説明会の他、各プログラム・コースの多様な企画が開催されました。これらの企画について、各所属教員に紹介してもらいました。

【学校教育課程・初等中等教育コース】

教育実践プログラム 美術教育研究室企画

石井 宏一

7月19日に開催されたオープンキャンパスでは美術教育研究室内の所属学生6名がスタッフとして参加し、「教員養成系学部における『美術』の授業を体験しよう」と題した企画のもと、本学における「美術」の「学び」の特徴について、来場した80名を超える高校生に向けて紹介しました。



多くの高校生は「美術」の授業に対していろいろな印象を持っています。しかし、それらはいくまで「生徒目線」からのもの。それを教える側、すなわち「教員目線」から捉えるとどうなるのか、ということを感じるのが本企画のポイントです。その意味では「教員養成系学部」の中にある「美術科」の「学び」がどのようなものなのか、ということを知るための絶好の機会となります。

当日は、研究室所属学生が先生役となって、高校生に対して模擬授業を行う形で企画が実施されました。ここではデザイン、特に「展開図による立体構成」という題材が設定され、立体を実際に作っていきながら授業が行われましたが、先生役の学生は「なぜ、展開図という教材を用いて授業が行われるのか」、また「教材の作成のために、多くの時間を使って教材研究が行われている」ことを熱心に説明し、普段、高校生が受けている「美術」の授業と、教員としての立場から学ぶ「美術」の授業との違いについて、理解を促していました。

参加した高校生たちは両者の違いに気づくとともに、さまざまな配慮や教材研究のもと「美術」の授業が運営されていることに驚きを隠せない様子でした。特に教材研究によって作成された展開図から多様な「かたち」が次々と生み出されていくことに対して素直に感動の表情を見せ、「教員養成系学部」の中にある「美術科」の「学び」について理解を深めていました。

英語教育プログラム

若手 保彦

例年と同様、英語教育プログラムの企画は、(1)プログラムの概要紹介、(2) 英語の歌、(3) 外国語の模擬授業、(4) 教員によるミニレクチャー、の4つで構成されました。

最初の概要紹介では、英語教育プログラムの特徴及びプログラムで求める人材、入学試験、英語教育関連科目のカリキュラム等について主任から説明を行いました。

次に、1年生による英語の歌の披露がありました。歌は、コロナ禍の時期を除いて毎年行っています。今年はディズニーの映画「塔の上のラプンツェル」内の挿入歌「I See the Light」を歌いました。

続いての外国語の模擬授業は毎年3年生が担当しており、今年はホームステイのルールを作るという場面の中で、must と have to の表現の違いについて考えさせる活動を行いました。

最後のミニレクチャーは毎年パターンソン先生が行っています。参加者は日本語のラ行の発音の方法について確認した後で、英語の R と L の発音の

違いについて、口の中の舌の動きを確認したり、音を聞き分けるクイズをしながら学んでいました。



英語発音に関する教員のミニ講義

理数教育プログラム

原田 勇希

初等中等教育コースの中でも「理数教育プログラム」は、数学や理科の高い専門性を持った小学校、中学校、高校の教員になるための専門的な学びを行うプログラムです。オープンキャンパスでは、「算数・数学」と「理科」に分かれてそれぞれについて紹介しました。

算数・数学のコーナーでは、学生が算数・数学に関するゲームやクイズで楽しむ参加型模擬授業を行いました。高校生や保護者をはじめとする多くの参加者に現役の大学生が人前で活躍の様子を見てもらうことができました。また、算数や数学は人によっては苦手意識を持ちやすい教科であるかもしれませんが、学生の皆さんが主体となって教科の持つ魅力や楽しさを存分に伝えてくれた点はとても良かったと思います。

理科のコーナーでは、教員が学生とともに物理、化学、生物、地学に関する観察や実験を体験できるブースを設置しました。例えば物理のブースでは液体窒素で冷却した超伝導体が磁石の上で浮遊する「ピン止め効果」を観察し、参加者の皆さんは日常でなかなか見ることのない不思議な現象に目を輝かせていました。高校生にとって理科の勉強は受験を意識したものになりがちですが、理科の本質はホンモノから学ぶ直接体験にあります。こうした本質的な学びの基礎に触れながら、改めて理科の面白さを経験できたのではないのでしょうか。



【学校教育課程】

特別支援教育コース

能田 昂

特別支援教育コースでは、オープンキャンパスのコース企画として「障がい疑似体験・なんでも相談コーナー」を実施しました。

3つの時間帯に分けて開催し、合計44名（高校生30名、保護者14名）の方にご参加いただきました。「障がい疑似体験」では、肢体不自由や視覚障害、学習障害等の体験を行いました。具体的には、文字の読み書きが難しい子どもの日常生活の疑似体験や車椅子での移動等を通して、一人ひとりの多様なニーズに応じた支援の大切さを実感していただき、参加者に特別支援教育への理解を深めてもらいました。「なんでも相談コーナー」では、学生が大学での学びや学生生活について丁寧に説明を行いました。

準備や当日の運営は、1年生から4年生まで、「子どもとともに未来をつくるコンダクター」を目指す学生たちが協力しながら取り組みました。アンケートにご回答いただいた方からは高い評価



をいただき、参加された保護者の方からは「特別支援の学生さんとお話できたことがよかった」との声が寄せられ、コースでの学びの魅力を直接伝える重要性を実感しました。

こども発達コース

保坂 和貴

「大学生の学びの姿を間近に感じることでできる機会にすること」、これがこども発達コースのオープンキャンパスのコンセプトです。今年度も、3つの企画を通じて、実際に学んでいる先輩たちの生き生きとした姿を高校生の皆さんに感じてもらえるよう取り組みました。

「コース説明会」では、教員がコースの概要をお話しするとともに、現役学生が自分たちの学びについて語りました。時間割の組み方から大学生活の楽しさまで、先輩たちのリアルな体験談を聞くことで、「自分もこんな学生生活を送れるんだ」というイメージを持つことができたのではないのでしょうか。

「先輩と語ろう」のコーナーでは、こども発達コースで学ぶ先輩たちと高校生の皆さんが、お茶を飲みながら気軽にお話しできる場を用意しました。取得できる免許のことから受験勉強のコツ、大学生活の本音まで、何でも質問できる雰囲気の中で、先輩たちの等身大の姿に触れていただきました。きっと「こんな先輩みたいになりたい」と感じる瞬間があったことと思います。

「授業成果の展示」では、保育士・幼稚園教諭や小学校教諭を目指す学生たちが、日頃の授業で制作した作品や実際に実習で使用した教材、卒業論文などを展示しました。子どもとかかわるための知識や技能を身につけていく過程が目に見える形で表現され、「将来の自分もこんな学びを積み重ねていくんだ」という具体的なイメージを持ってもらえたのではないかと思います。

こども発達コースでは毎年、高校生の皆さんに



「ここで学んでみたい」という思いを抱けるよう、様々な工夫を重ねています。同時に、在生にとって、後輩となる高校生に自分たちの学びを伝えることで、あらためて学ぶ意味や喜びを実感する貴重な機会となっています。

【地域文化学科】

地域社会コース

成田 憲二

地域社会コースでは、高校生に大学でどんなことが学べるかや大学はどんなところなのかを知ってもらうために、大学の授業を体験できる模擬授業と現役の大学生から直接大学生活について質問できる地域社会カフェを企画しました。また、カフェには教員の研究成果や書籍などを展示しました。模擬授業は、地域社会コースの3分野をそれぞれ代表する教員が「政治学から見る秋田と日本」、「秋大生によるB級グルメを活用した地域活性化」、「食健康分野による地域貢献活動」の3つの講義を開催し、多くの高校生が熱心に受講していました。

カフェでは、友達同士や家族とやってきた高校生が、13名のボランティア学生に大学での勉強の内容や学生生活・受験対策などについて熱心に質問する姿が見られました。同じ世代同士だからか、とても仲良く楽しそうに話しているのが印象的でした。我々教員ではこうは行きません。暑い中、長時間にわたり熱心に、親切に来場者に対応してくれたボランティア学生に感謝を伝えたいと思います。

オープンキャンパスは、普段接することの少ない大学自体やそこで日々活動している教員や学生の様子を知ることができる良いチャンスであると同時に、大学という少し閉じこもったコミュニティにとっても、外部に授業とは異なる大学を身近に感じてもらえる場として非常に重要であると実感しました。来年度も多くの高校生や保護者の皆さんの訪問をお待ちしていますので、ぜひお気軽にご参加ください。



国際文化コース

清水 翔太郎

国際文化コースでは、「歴史」(日本史、東洋史、西洋史)、「文学」(イギリス、ドイツ、日本近現代)、「芸術」(美術史、アメリカ文化、フランス文化、ロシア文化)、「人間」(日本語学、文化人類学、西洋哲学、日本哲学)について、グローバルかつローカルな視野から学ぶことができます。

オープンキャンパスでは、こうした国際文化コースの特徴を知っていただくために、例年多数の在生に協力してもらい、教育文化学部3号館2階でコース企画を行っております。今年度はポスターによる授業紹介と在生による相談会の他、「世界の街角」ではコースで学ぶことのできる国と言語、海外研修の紹介を行いました。

廊下には昨年、教員が執筆した秋田魁新報の連載「秋田大学教育文化学部発 世界×文化 ジェンダー」を掲示して、教員の専門分野に接していただくスペースを設けました。こちらの連載については、魁新報のホームページからもご覧いただけます。

また、模擬授業も2回、ロマン・パシュカ先生「日本文化とグローバリゼーション：カワイイ革命」と内田昌功先生「中国語ってどんな言語」を行いました。

今後も多くの方にご参加いただき、国際文化コースと本コースで学ぶことのできる人文学の魅力を知っていただく機会になると幸いです。



心理実践コース

中野 良樹

心理実践コースでは4年間で心理学の基礎から応用まで心理学を幅広く学び、実際に卒業研究に取り組みます。認定心理士や公認心理師の資格取得が可能です。オープンキャンパスでは、以下の4つの企画を用意しました。

① 実験企画：視線追跡のデモンストレーション、錯視・錯聴体験、洞察パズル“タングラム”、鏡映描写実験など、様々な心理実験が体験できます。学生ボランティアが用具の使い方など丁寧に説明してくれます。



モニターに視線追跡画面を表示。右は錯視・錯聴体験



高校生や保護者の方々がパズルや心理実験に挑戦

② 展示企画：心理実践コースの卒業研究がポスターに展示され、学生の研究成果が分かります。“心理学トリビアカード”で豆知識を学べます。



研究テーマは対人支援、SNS、化粧など多種多様

③ 相談企画：心理実践コースの学習、進路、資格のことなど、教員や学生が丁寧に説明します。どなたでも申し込みます。



お茶を飲みながら気軽に相談できます

④ 相談室ツアー：実際にカウンセリングなどを行う臨床心理相談センターを案内します。普段は公開されない施設を見学し、環境整備のあり方、心理検査や支援業務など大学院生が説明します。



秋田大学・教育文化学部 HPで紹介動画を公開して います！

秋田大学オンラインオープン
キャンパス 2025
(https://www.akita-u.ac.jp/admission/ooc_2025/)

「君はなにを学びたい？学部学科の紹介」「現役秋大生と一緒にコース探検！」「どんな授業をしているの？」「こんな研究しているよ」等の動画が見られます。

【附属教職高度化センター】

第10回・模擬授業フェスティバル

細川 和仁

10年以上前から本学部で開催してきた「模擬授業フェスティバル」を、今回初めてオープンキャンパスの一企画として実施しました。

「模擬授業フェスティバル」は、教育実習等の経験を通じて得た課題を解決していくため、模擬授業の授業づくりから当日の演示まで、学生グループで試行錯誤しながら取り組んでいく企画です。

学生同士で切磋琢磨して、実践的授業力を高め、していくことを目指すものです。

今回、オープンキャンパスの一企画として実施したのは、教職を目指す学生、大学院生が普段から取り組んでいる様子を、来場者の皆さんにも見てもらいたいという意図からでした。高校生の皆さんには、本学部で学び教職を目指すモチベーションを少しでも高めてもらえれば・・・と思っています。

授業準備に取り組んだ皆さんをはじめ、フェスティバルの運営に関わられた皆さん、ありがとうございました。

秋田大学オープンキャンパス・教育文化学部企画
高め合う未来の教師集まれ！

第10回 模擬授業フェスティバル プログラム

実習で得られた課題について、仲間と共によりよい解決策を考えてみよう。
模擬授業にして発表し、授業実践力を高めよう。

- ・主催 秋田大学教育文化学部附属教職高度化センター
- ・共催 秋田大学大学院教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）
- ・実施日時 2025年7月19日（土）13：10～15：30
- ・会場 秋田大学教育文化学部・3号館150教室



秋田大学教育文化学部
マスコットキャラクター「カモン」

プログラム

- 1 開会行事（13：10～13：20）
 - (1) 開会の辞
 - (2) 開会のあいさつ 佐藤 修司（秋田大学教育文化学部附属教職高度化センター長）

2 模擬授業演示（13：20～15：00）【すべて部門A：ICT活用部門】

時間	学年及び教科	氏名（所属）
① 13：20～	中学校2年国語	佐藤 里香、丸岡 初香（秋田大学大学院教育学研究科・1年）
② 13：45～	中学校3年英語	岩田 稜（秋田大学教育文化学部英語教育コース・3年）
③ 14：10～	高等学校1年理科（化学）	遠藤 優生（秋田県立大学生物資源科学部応用生物科学科・4年）
④ 14：35～	小学校5年算数	小林 亜莉亜、近江 鈴香、佐藤 愛海、渡部 温子（秋田大学大学院教育学研究科・2年）

コメンテーター 萩原 亨、長沼 真人、菅 徹、南 陽子
（秋田大学大学院教育学研究科・現職教員大学院生）



★参加者の皆さんも各模擬授業への感想等、コメントをお願いします。⇒



3 来場された皆さんとの交流会（15：00～15：20）

4 閉会行事（15：20～15：30）

- (1) 閉会のあいさつ 細川 和仁（秋田大学教育文化学部附属教職高度化副センター長）
- (2) 閉会の辞



学生協議会の活動紹介

学生協議会議長 佐々木 千佳

学生協議会は、学生の大学・大学院生活の充実を図ることを目的に、2014年度に設置された「学生による、学生のための組織」です。

今年度は、大学の行事や広報活動と連動的に活動し、オープンキャンパス当日には、12名の委員が活動を行いました。学部各コース会場の案内を行う総合案内、広報委員の教員による「相談コーナー」の補助説明、学部全体説明会での学生による学部紹介を行いました。

協議会委員の学生たちは、日々の忙しい時間のなか、前日準備や当日の活動を大変精力的に行ってくれました。当日は、多くの来場者が委員の学

生たちの案内や相談窓口を利用し、また全体説明会での学部紹介を熱心に聞いていました。

終了後の慰労会で聞いてみると、学外への情報発信の一翼を担うことに委員の学生たちが充実感や達成感を得た様子が伺えました。またアンケートでも、説明会や相談コーナーで現役の学生たちに懇切丁寧に説明してもらえて良かったとのお声をいただくことができました。

オープンキャンパス以外での活動については、学生協議会副代表の安田佳恵さん、山口千颯さんに紹介をしていただきます。

2025年オープンキャンパスでの活動の様子



相談コーナーで広報委員の先生方と



3号館ロビーでの案内



全体説明会での学部紹介



学生の「声」を形にするために

学生協議会副代表 安田 佳恵 (地域社会コース3年次)

皆さん、はじめまして。

教育文化学部地域文化学科地域社会コース3年の安田佳恵と申します。今年度より、学生協議会副代表として活動しております。副代表としての活動を通じて、学生の声を形にしていくことの難しさを感じる一方で、その一つひとつの意見が大学の環境をより良くする力を持っていることに、大きなやりがいを感じています。

そうした中で、先日開催された「学部長との懇談会」は特に印象深く、私にとって大きな学びとなる経験となりましたので、ご報告させていただきます。

学生協議会では、学生から寄せられた大学生活に関するさまざまな意見や要望を、教育文化学部の学部長や各種委員長の先生方と共有し、意見交換を行う「学部長との懇談会」を毎年実施しています。今年度も、自習室の利用環境の改善や休憩スペースの設置など、学内施設に関する具体的な意見が多数寄せられました。一見すると些細に思える要望でも、実際には日々の学生生活に大きな影響を及ぼしていることが多く、改めて「小さな声」の大切さを実感しました。

懇談会を通じて特に印象的だったのは、先生方がどの意見にも真摯に耳を傾け、前向きに受け止めてくださった姿勢です。その丁寧な対応からは、学生一人ひとりの声を大切にしてくださる温かさと、信頼に基づいた対話の重要性を強く感じました。このような場があるからこそ、私たち学生も受け身ではなく、自らの学びの環境に主体的に関わっていく意識を持つことができるのだと思います。

今回の懇談会を通して、学生協議会委員としての責任と、それに伴うやりがいを改めて実感しました。すべての意見がすぐに実現するとは限りませんが、「声を届けること」自体に大きな意味があるという気づきは、私にとってかけがえのない経験となりました。

今後も、委員としての責任を果たしながら、学生の声に丁寧に向き合い、少しでも多くの想いを大学に届ける橋渡しの役割を果たしていきたいと考えております。そして、学生一人ひとりがより充実した大学生活を送ることができるよう、引き続き尽力してまいります。



6月24日、学部長との懇談会

縁の下の力持ち 学生協議会の活動

学生協議会副代表 山口 千颯（心理実践コース3年次）

こんにちは。学生協議会副代表の山口千颯と申します。今回は私が学生協議会の活動について説明させていただきます。

皆さんは学生協議会をどのように捉えているのでしょうか。皆さんに分かりやすく伝えるとしたら秋田大学教育文化学部版の「生徒会」と言えるでしょう。活動が少なく目立っていないという気がしますが、実はいくつかの行事の裏で手伝いなどを行っている「縁の下の力持ち」なのです。学生協議会の主な仕事として日常的なものと行事に参加するものの2種類があります。

日常的に行っている活動としては、メールマガジンの発行があります。私はこの活動がとても好きで、よく書かせていただいています。内容としては学校生活に関わるものや、秋田大学周辺のお店やイベントを紹介しています。記事を書くために外に取材に行くこともあります。また、期間限定ではあるものの、学部長との懇談会に向けて学生の皆さんの意見や要望を集めることもあります。学部長との懇談会では、集まった意見を学部長や関係者の方々に伝え、学生生活をより充実したものにするために話し合います。今年の懇談会では、学生たちの視点でしか分からない部分を知ることができたという言葉をいただきました。他にも、学生から去年には無かったキッチンカーについての意見もあり、学生の皆さんにも協力してもらっていると感じました。

行事に参加するものとしては卒業を祝う会で祝辞を述べたり、新入生保護者説明会やオープンキャンパスにて学生協議会と大学生活について説明したりします。説明会の時は参加者が真剣に聞いてくれたので緊張しつつもきちんとこなせたことをよく覚えています。

私たち学生協議会は学生の皆さんが充実したものになるよう日々努力しています。力が及ばないところは多々あるものの、できることを少しずつ着実にやっていこうと思います。より良い大学生生活のため、これからも活動をしていきますので今後ともよろしく願いいたします。



7月19日、オープンキャンパスの学部全体説明会での学部紹介

【学生の活動紹介】

日本理科教育学会オンライン全国大会にて「発表賞」を受賞

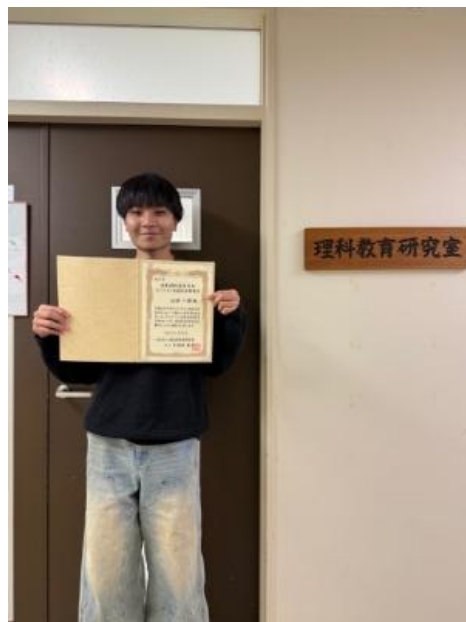
山田 一輝（理数教育コース4年次）

この度、日本理科教育学会オンライン全国大会にて発表賞を頂くことができました。以下にその研究の概要を説明いたします。

近年の理科教育学では、学習者は科学的知識を習得するだけでなく、「そもそも科学とは何か」といった科学に関する知識、「科学の本質（Nature of Science; NOS）」を習得することが重要であると考えられています。しかし、学習者のNOSの理解状況を正確に評価・測定することは長年の課題でした。とりわけ、回答者と面接者が対話を通じて個々の理解状況を測る「半構造化面接」は有効な評価手法であるものの、時間的・人的コストから広範な実施は困難であり、教育現場で実践可能な妥当性の高い評価手法が求められてきました。

そこで本研究では、発展が目覚ましい生成AIを活用することで従来の評価手法が抱える課題を克服できるのではないかと考え、その第一歩目として、AIが学習者の記述回答から理解状況をどの程度正確に評価できるかを検証しました。具体的には、AI（GPT-4o）に仮想の回答を提示し、その内容を「理解している回答」、「不理解の回答」、「理解度に関する判断ができない回答」の3カテゴリに分類させ、分類精度を測定しました。また、AIが「理解度に関する判断ができない回答」と判断した際に、学習者の理解状況を正確に把握するための良い追加の質問を生成可能かどうか検証しました。

実験の結果、内部パラメータを少しだけ調整すると（ソフトマックス関数の温度係数を0に設定すると）、生成AIは高い精度（正確性 = 0.95）で回答を分類できることが明らかになりました。これは、AIが回答の文脈を読み解き、内容の妥当性を判断する能力を有していることを示唆しています。さらに、情報が不十分な回答に対して、「具体的な例を挙げて説明してください」といった、学習者の思考を深掘りする追加の質問を自動生成できました。この結果は、生成AIが熟練した教員や評価者でなければ困難であった、対話的で質の高い評価を自動化できる可能性を示唆しています。今回の研究成果は、生成AIが教育評価の領域で強力なツールとなりうることを実証するもので、将来的にはAIが、個々の学習者の理解状況をリアルタイムで把握し、一人ひとりに最適化されたフィードバックを提供する、新たな教育の形が期待されます。



受賞の山田さん（研究室前で）



4月のミーティング（協議会室（右写真）にて）

学生協議会委員の活動に参加することで、自分たちの所属する組織について改めて考え、また改善していくための機会を得られます。
 来年1月より、学生協議会委員のメンバーが入れ替わります。活動に参加したいという学生の皆さんは、ぜひWebClass「学生協議会」のメッセージ等でお知らせください！



学部・研究科の活動（2025年7月～10月）

【全学】

7/11：キャンパスクリーンデー
 7/19：オープンキャンパス
 8/8-9/28：夏季休業
 9/29：後期開始
 10/14：キャンパスクリーンデー
 10/17-18：大学祭

9/17：編入学試験

【教育学研究科】

9/27：第1期大学院入試
 10/25：第2回大学院説明会

【附属学校園】

7/28：第1回教育文化学部附属学校学びのコミュニティ・スクール協議会
 9/22：附小公開研究協議会 I

【学部】

7/3：第1回秋田大学高大接続教育協議会



発行 秋田大学教育文化学部／教育学研究科

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1 TEL 018-889-2509 FAX 018-833-3049

教育文化学部・教育学研究科HP <http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>

学部研究科通信「みなおと」バックナンバー⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_magazin.html

教職大学院通信「暁鐘の音（かねのね）」⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_magazin.html

* 誌名「みなおと」の由来である秋田県女子師範学校校歌（1910年制作）を聴くことができます。

http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_symbol.html をご覧下さい。